

「近視のすべて」

主催：公益社団法人日本眼科医会

前書き

オーガナイザー：大野 京子（東京科学大）

近年、近視の増加は世界的な公衆衛生課題となっており、その理解と対策は眼科医療において極めて重要です。本講座では「近視のすべて」をテーマに、疫学・病態メカニズムから最新の進行抑制治療、教育・行政的取り組みに至るまで、第一線の専門家が包括的に解説します。栗原俊英先生には近視の病態機序を、柏井真理子先生には学校保健の視点からの現状と課題を、松村沙衣子先生には低濃度アトロピンの臨床応用を、五十嵐多恵先生には眼鏡とレッドライト治療の展望をお話しいたします。さらに、生野恭司先生は病的近視の合併症、平岡孝浩先生はオルソケラトロジーの最新知見を紹介します。本講座が日常診療に直結する知見の整理と今後の方向性を考える一助となれば幸いです。

プログラム

●第1日目

15：30～15：45	はじめに	大野 京子（東京科学大）
15：45～16：35	近視の疫学と病態メカニズム	栗原 俊英（慶應大）
16：35～17：25	学校保健における近視への取り組み	柏井真理子（柏井眼科医院／日本眼科医会）
※名古屋講座	今後期待される近視進行抑制治療	五十嵐多恵（都立広尾病院／東京科学大）
17：25～17：35	休憩	
17：35～18：25	低濃度アトロピン点眼の可能性と展望	松村沙衣子（東邦大・大森）
18：25～18：55	質疑応答	

●第2日目

9：00～ 9：05	はじめに	大野 京子（東京科学大）
9：05～ 9：55	今後期待される近視進行抑制治療	五十嵐多恵（都立広尾病院／東京科学大）
※名古屋講座	学校保健における近視への取り組み	柏井真理子（柏井眼科医院／日本眼科医会）
9：55～10：45	病的近視の合併症	生野 恭司（いくの眼科）
10：45～10：55	休憩	
10：55～11：45	オルソケラトロジーによる治療	平岡 孝浩（筑波大）
11：45～12：15	質疑応答	
12：15～13：10	まとめ	

この講座は日本眼科学会専門医制度の生涯教育事業として認定されています。
(新専門医制度に基づき単位が取得できます)

東京講座	Web ライブ配信	2026年 2 月 7 日（土）・ 8 日（日）
福岡講座	アクロス福岡	2026年 3 月 14 日（土）・ 15 日（日）
名古屋講座	ウインクあいち	2026年 4 月 4 日（土）・ 5 日（日）

●東京講座は Web ライブ配信のみとなります。現地開催はありません。

近視の疫学と病態メカニズム

栗原 俊英（慶應大）

近年、我が国を含め東アジアで近視人口が急増している。近視は単なる屈折異常にとどまらず、進行とともに眼疾患リスクが増加するため、進行抑制治療の確立が望まれており、そのためには病態メカニズムの理解が必須である。近視の進行には網膜でのデフォーカス感知、脈絡膜菲薄化、強膜での細胞外マトリクスリモデリングが順序立てて関わっている。本講演では、分子細胞生物学の発展に伴い明らかとなった最新の知見を交え、近視進行のメカニズムを紹介する。

学校保健における近視への取り組み

柏井真理子（柏井眼科医院／日本眼科医会）

児童生徒は定期健康診断として毎年学校で視力検査を受けている。学校保健統計調査によれば1.0未満の者が増加、さらに令和3～5年度に実施された文部科学省児童生徒の近視実態調査では視力低下の多くが近視であることが明らかになった。この講演では近視実態調査の概要はじめ、文部科学省や日本眼科医会が近視進行予防のために作成している「啓発資料」の紹介や今後の対応すべき課題について述べる。

低濃度アトロピン点眼の可能性と展望

松村沙衣子（東邦大・大森）

近年、小児の近視進行抑制目的で低濃度アトロピン点眼が注目され、濃度別の有効性と安全性が多くの研究で検証されてきた。国内でも0.025%の低濃度アトロピン点眼液（リジュセアミニ[®]点眼：参天製薬）が初めての近視進行抑制薬として承認され、小児の近視管理における重要な選択肢となっている。侵襲が少ないことから低年齢からの使用が可能であり、また光学的治療との併用も期待できる。本講演では国際的エビデンスを踏まえながら、0.025%製剤の有効性、安全性、適応限界、リバウンド対策や併用療法との関係など、実臨床での課題とその対応について解説する。

今後期待される近視進行抑制治療

五十嵐多恵（都立広尾病院／東京科学大）

眼鏡は小児の屈折矯正における治療の第一選択であり、特殊なデザインの眼鏡を装用することで近視進行も抑制できれば、より多くの小児が近視の発症早期から進行抑制治療を開始でき、多大な恩恵を享受できる。一方、レッドライト治療は効果だけで見ればBeyond the Bestと言える革新的な近視進行抑制治療である。本講演では、小児の近視進行抑制治療における特殊なデザインの眼鏡と、レッドライト治療の2つのモダリティの基本から最新の知見までを時間の許す範囲でまとめた。

病的近視の合併症

生野 恭司（いくの眼科）

病的近視には前眼部から後眼部まで幅広く合併症が生じる。網脈絡膜萎縮と脈絡膜新生血管は、以前からよく知られた特異的黄斑合併症である。外科的治療の対象となる中心窩分離症や黄斑円孔（網膜剥離）は、治療が困難でかつ病的近視では割合高頻度で遭遇する。後部ぶどう腫の形成は視神経乳頭にも変形ストレスを加え、著明な視野障害をもたらす近視性視神経症も生じせしめることがある。本講演ではこれら合併症について解説する。

オルソケラトロジーによる治療

平岡 孝浩（筑波大）

多数のメタ解析により眼軸長伸長抑制効果が支持されており、7～10年の長期研究でも有効性と安全性が確認されている。小径BOZDレンズによる効果増強や、片眼治療での左右差抑制も報告されている。低濃度アトロピンとの併用は相加効果を示し、瞳孔径や高次収差との関連も示唆されている。感染性角膜炎の発生頻度も近年低下しており、安全性の向上が進んでいる。本講演では治療エッセンスと最新情報を提供する。

■受講申込要領

1. 申込方法

HP (<https://www.joawebsite.com/> または右記二次元コードからもアクセスできます) より、申込締切日までに必要事項を入力の上お申し込みください。

お申し込み後すぐに申込完了のメールが届きます。受講申込後翌日になってもメールが届かない場合は、各開催事務局へご連絡ください。

2. 受講料

A 会員：¥20,000 B 会員：¥15,000 C 会員：¥1,000
非会員：¥50,000

3. 申込締切日

- 東京講座 前期締切：2026年1月23日（金）
後期締切：2026年2月8日（日）10：00
- 福岡講座 2026年2月27日（金）当日受付あり
- 名古屋講座 2026年3月20日（金）

東京講座はWeb開催のみのため当日まで受付をいたしますが、事前にテキスト到着をご希望の方は前期締切までにお申し込みください。前期締切後にお申し込みの場合は、講座当日までにテキストが届かない可能性があることをご了承の上お申し込みください。福岡講座は、当日も受付いたします。各講座ともテキストの数に限りがあります

ので、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

4. 取り消し

申込締切日以降の受講取り消しについては、受講料は返金いたしません。

5. テキスト

事前に送付します。東京講座については3.をご参照ください。

6. 託児のご案内（福岡講座、名古屋講座のみ）

託児手配をご希望の方は、受講申し込みフォームの託児希望欄にチェックを入れてください。後日、開催事務局よりご案内いたします。詳細は各講座にお問い合わせください。

●東京講座（日本眼科医会生涯教育講座事務局）

TEL：03-5287-3801 FAX：03-5287-3802
Mail：syogai@staffroom.jp

●福岡講座（福岡県眼科医会）

TEL：092-434-4800 FAX：092-434-4801
Mail：office@fukuoka-gankaikai.org

●名古屋講座（愛知県眼科医会）

TEL：052-262-0054 FAX：052-251-9213
Mail：zimu@a-gankai.com

お申し込みは
こちらから

